

1 事業名

平成27年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業  
スキー体験 in テンパーク ～スキー すき 好き シーハイル!～

2 趣旨(事業の目的)

スキーの体験や交流活動をとおして、コミュニケーション能力の向上と自然に親しむ心を育むとともに、スキーに親しむ機会とする。

3 期日

第1回 平成28年1月 6日(水)～1月 7日(木)  
第2回 平成28年1月23日(土)～1月24日(日)

4 参加者

第1回 110名  
第2回 72名

5 後援

岩手県教育委員会 盛岡市教育委員会 滝沢市教育委員会

6 共催

みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会

7 内容

(1) 日程

【1日目 1月6日(水), 1月23日(土)】

	10:00	10:30	11:30	12:00	13:00	13:30		16:30	17:30	18:30	20:00	21:00	
【バス運行】 ①滝沢市役所 9:30 発 ②盛岡駅西口バスターミナル 9:00 発	開 会 式	交 流 会	出 発 準 備	昼 食 (弁当)	岩 手 高 原 へ	バ ス 移 動	ス キ ー 体 験 ①	バ ス 移 動	休 憩	夕 食	ス キ ー の 話	入 浴	就 寝

【2日目 1月7日(木), 1月24日(日)】

	7:00	7:20	8:30	9:00	9:30		11:30	12:30	13:00				
起床 洗面 清掃	朝 の 集 い	朝 食	荷 物 整 理	退 所 点 検	岩 手 高 原 へ	バ ス 移 動	ス キ ー 体 験 ②	昼 食 (スキー場)	閉 会 式	バ ス 移 動	岩 手 高 原 発	【バス運行】 ①滝沢市役所 ②盛岡駅西口マリオス入り口1階	13:40 着 14:00 着

(2) 指導者

盛岡市スキー協会事務局長

(スキー実技指導

佐々木 正宏 氏 他

第1回 15名・第2回12名)

盛岡市スキー協会指導副部長

八重樫 泰規 氏

国立岩手山青少年交流の家

階 幸男 氏

国立岩手山青少年交流の家

外部指導者

主任企画指導専門職

桑原 玲子

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

高橋 省一

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

鎌田 信浩

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

丹 康浩

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

中村 聡

国立岩手山青少年交流の家

事業推進係

佐々木 翔也

国立岩手山青少年交流の家

総務係

三浦 勇次郎

国立岩手山青少年交流の家

管理係

千葉 浩幸

指導補助

法人ボランティア

第1回 8名・第2回10名

### (3) 企画のポイント

岩手県内盛岡市近隣の小学校では、3学期に体育の授業で「スキー」が行われることが多いため、小学校の授業の前にスキーに慣れ親しむことに重点を置いて企画した事業である。そのため、事業名も「スキー体験 in テンパーク」とし、あえて「体験」という言葉を使用した。スキー体験では、できるだけ小グループにし、参加者一人ひとりに目が行き届くようにスキー協会を中心に指導を依頼した。

体験だけではなく、スキーに対しより幅広く興味を持ってもらうために「スキーの話」の時間を設定した。

### (4) 広報のポイント

盛岡市と滝沢市の小学校に、約15,000部のガチャピン・ムックの画像と子どもゆめ基金のロゴを使用したチラシを配布するとともに、本施設のホームページを活用し、幅広く企画の周知を図った。「子どもゆめ基金」の認知度も高まった。新聞「盛岡タイムス」に、参加者が楽しくスキーを行っている様子が掲載された。

### (5) 運営のポイント

スキー技術の向上というより「スキーに慣れ親しむ」ために、技能別の4～7人のグループにした。スキー指導者としては、初級者～上級者まで幅広く指導を行っている「スキー協会」を中心に依頼した。

参加者の安全性を高めるため、参加者に対応したサイズのヘルメットを購入して事業に臨んだ。

交流会では、生活班とスキー体験班が異なるため、どちらの班のメンバーとも仲良く活動ができるようなアイスブレイクを組み立てた。

## 8 成果とその普及

参加者のアンケートから、参加者の満足度が高かったことが伺われる。「また、来年も参加したい」といった声も多く聞かれた。「スキーが初めて」「今シーズンはまだスキーを行っていない」「スキーがちょっと苦手」といった子どもたちも、体験終了後には、「スキーが楽しかった。」と話していた。

交流に関しても、「友達が増えた。」「交流会が楽しかった。」等の感想が寄せられた。

「スキーに親しむ」と「交流を深める」という事業の目的は達成できた。

## 9 今後の課題

参加者個々に応じたスキー体験ができるよう、スキー体験の講師の人数を確実に確保したい。

第1回目の日程を平日としたために、学生ボランティアの参加が大学の事業と重なってしまい、ボランティアの参加が少なかった。家族と離れて過ごした経験がほとんど無い小学校3年生4年生の参加が多かったが、ボランティア一人が対応する子どもたちの数が多くなってしまい、ボランティアの負担も大きくなってしまった。

## 10 活動の様子

### 交流会の様子



### スキー体験



### スキーの話

